

平成30年度第1回国立岩手山青少年交流の家施設業務運営委員会議事要旨

日時 平成30年 7月25日(水) 13:00~14:30
場所 国立岩手山青少年交流の家 第1研修室

出席者 (施設業務運営委員)

浅沼道成	岩手大学 人文社会科学部 教授
安倍哲矢	滝沢市立一本木小学校 校長
大石泰夫 (委員長)	盛岡大学 文学部 教授
小野寺邦貢	宮城県教育庁 生涯学習課長
菊池啓子	岩手県立陸中海岸青少年の家 所長
細川健一 (代理)	滝沢市教育委員会 生涯学習スポーツ課 主任主査
松川仁紀 (代理)	岩手県教育委員会 生涯学習文化財課 社会教育主事
主濱恵悦	滝沢市子ども会育成連合会 会長
関山恭幸	岩手県PTA連合会 副会長
中下卓也	秋田県教育庁 生涯学習課長
眞澤繁一	(株)IBC岩手放送 取締役 放送本部編成局長
横澤繁一	岩手県レクリエーション協会 理事長
平山健一 (代理)	青森県教育庁 生涯学習課 社会教育主事

欠席者 岩 淵 健 一 岩手県立盛岡農業高等学校 校長
佐 藤 精 晋 盛岡市立厨川中学校 校長 ※岩手県中学校長会 副会長
高 橋 繁 雄 一般社団法人 岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会 理事
中 野 美 知 子 一般社団法人盛岡市青年会議所 理事長
吉 田 幸 司 八戸市教育委員会 教育部長

〈職員〉

松田所長、小岩次長、東主幹兼総務係長、佐々木主任企画指導専門職、工藤副主任企画指導専門職、上村副主任企画指導専門職、松本企画指導専門職、林田企画指導専門職、田口事業推進係長、藤根事業推進専門職、小綿管理係長、成田管理係員、権名総務係員

1 挨拶 (所長)

2 日程・資料の確認 (次長)

3 施設業務運営委員及び職員の紹介

4 委員長・副委員長の確認

事務局から、昨年度に引き続き大石委員を会長に、熊谷委員を副会長としたい旨提案があり、これを了承した。

5 「新しい公共」の管理運営について

次長から資料に基づき、平成30年度の機構本部の年度計画及び第3期中期目標・中期計画について説明があった。次に、当施設の「新しい公共」の管理運営の推進として、前年度から当委員会の下に設置した3つの部会の現状について説明があり、今年度は部会員の選定等を進め、各部会の任務に沿って、施設と地域が協働のもと取組を進めていきたい旨説明があり、これを了承した。

6 国立岩手山青少年交流の家の運営状況説明等

①平成29年度の運営状況説明

- 1) 「親子めんこいキャンプ」及び「体験活動支援セミナー」、「イーハトーヴチャレンジキャンプ」の成果等について、企画指導専門職から説明を行った。
- 2) 昨年度1年間の利用者数・満足度などについて、事業推進係長から説明を行った。利用者数が過去5年において最高だった前年に比べ、利用団体数はさらに増加したが、利用者数、宿泊室稼働率は減少しており、宿泊利用者の確保が課題である旨の付言があった。
- 3) 法人ボランティアの登録者数・活動状況などについて企画指導専門職から説明を行った。

②平成30年度の運営状況・計画等説明

- 1) 今年度の事業方針の概要について、次長から説明を行った。
- 2) 「ツールドI☆B」、「雪遊びinテンパーク」、「How to ボランティア」等の教育事業計画について、企画指導専門職から説明を行った。
- 3) 「大規模災害時における臨時避難所としての使用に関する覚書」について、次長から説明を行った。
- 4) 岩手山組織図等について、主幹から説明を行った。
- 5) 平成29年度決算及び施設整備状況・平成30年度予算配分及び施設整備について、管理係長から説明を行った。

③審議 意見・質疑応答

委員長：平成30年度と29年度の企画事業の変更点について説明してほしい。

所長：長期キャンプとして大学生対象だった「イーハトーブチャレンジキャンプ」が小・中学生対象の「ツールドI☆B」に、機構からの委託が終了した「日独学生青年リーダー交流」は新たな国際交流事業として実施する予定である。また、「ボランティアコーディネーター研修」は終了となるが、冬場の利用促進として、「雪遊びinテンパーク」を実施するなどとしている。

委員長：利用者が減少していることに伴う増加策等は検討しているのか。

所長：平成29年度は国体の利用者がなくなったこと、バス代の高騰により学校が実施を見送ったこと等、外的要因として利用者減となったところもある。増加策としては、外国人団体や、内陸に訪問する沿岸の団体、北海道新幹線の開通にかかる函館方面の団体等への広報を検討・実施しており、滝沢市と連携して首都圏での広報活動も行っているところである。

委員：「日独学生青年リーダー交流」事業については、滝沢市としてもとても夢のある事業だった。平成30年度に予定している国際事業についても、若者が世界に視点を向けるという観点での展開もお願いしたい。また、滝沢市としても教育委員会等と連携し、市行政全体で生涯学習を支援していくので「新しい公共」について、幅広い視野で地域力を掘り起こしていくような取り組みにしてほしい。

所長：滝沢市には多様な形でかかわりを持たせてもらっており、当施設は地域の教育力を高めるという点で貢献できればと考えている。その中で、外部から人を呼び入れるきっかけとして海外等との友好都市協定が大きな役割を果たすので、取り組みを進めていただければ幸いである。また、「新しい公共」については、これから新たに作り上げるということから、ぜひとも様々な形でご協力をお願いしたい。

委員：宿泊室稼働率が減少しているが、少子化等により利用者を増やすことが難しくなっている。その中で「テンパークまつり」は初めて当施設を見てもらうという機会において非常に重要な位置づけとなるので、この参加者を増やすことが必要と思われる。また、先日、千名を超える団体が利用していたが、そのような大規模団体の招致も必要と思う。

次長：委員をとおしてIBC岩手放送と連携する等、広報には積極的な取り組みを進めている。

委員：機構本部の設定する宿泊稼働率の目標値に比べて、当施設の目標値が低く設定されているが、この理由について説明してほしい。

所長：施設ごとに規模・利用形態が異なっており、当施設の稼働率については機構本部と協議の上、定められた目標値となっている。

委員：学習指導要領の改訂にともなう、岩手山で実施するプログラムについて教えてほしい。

主任企画指導専門職：教科等に関連付けた事業として、岩手山では5年生の保健体育に関連付けた「ファーストエイド・オリエンテーリング」を企画しており、今年度の夏に施行する予定である。

本会議において説明された平成30年度の計画等について、委員の意見を取り入れた上で、所に一任して実施していきたい旨が委員長から提案され、承認された。

以上